

## 平成28年度 第2回小田原市食育推進計画策定検討委員会 会議概要

- 1 日 時 平成28年10月27日(木) 午後1時30分から午後3時20分
- 2 場 所 小田原市保健センター 2階 集団検診室
- 3 出席者  
委 員 稲葉委員(委員長)、飯野委員、大寶委員、柏木委員、小谷委員、佐久間委員、  
佐宗委員、鈴木委員、松本委員、安野委員  
(欠席 遠藤委員(副委員長)、高橋委員、西田委員)  
市職員 福祉健康部杉山副部长、地域安全課府川主事、生涯学習課内田主事、環境政  
策課岡部主査、高齢介護課古瀬主査、産業政策課内藤主任、農政課村上主査、  
水産海浜課岩本主事、教育指導課堀田指導主事  
事務局 健康づくり課吉田課長、健康づくり課澤地副課長、健康づくり課吉川母子保  
健係長、健康づくり課田邊主査、健康づくり課青木主任、健康づくり課白木  
主任
- 4 配布資料
  - ・次第
  - ・委員名簿
  - ・市職員出席者名簿
  - ・第2期小田原市食育推進計画(案)
  - ・水産海浜課資料
- 5 傍聴者 2名
- 6 会議内容

### 【資料の確認】

吉田健康づくり課長

資料の確認及び水産海浜課の資料差し替えと第2期小田原市食育推  
進計画(案)の訂正についての説明をした。

### 【自己紹介】

第1回策定検討委員会を欠席された委員(飯野委員、鈴木委員)から自己紹介があ  
った。

### ○ 議題

- (1) 第2期小田原市食育推進計画(案)について

### 【目次・第1章について】

委員長 本日は傍聴者が2名いることを説明し、開始した。

吉川母子保健係長

第2期小田原市食育推進計画(案)について、委員長と相談し、事務局  
で再考した箇所があり、本日配布した計画案で説明をすることを伝え、

目次、第1章について説明。

【質疑応答】

安野委員 前に送って頂いた計画案と違う箇所の説明をお願いしたい。

吉川母子保健係長

承知した。

佐宗委員 文言で、目次の所「第1章 計画の策定にあたって」ではないか。

大寶委員 計画策定の趣旨の3段落目の第2次神奈川県食育推進計画」のところで、食みらいかながわの「か」が抜けている。

委員長 内容については、他にはよろしいか。

【第2章について】

吉川母子保健係長

第2章について説明。

【質疑応答】

佐宗委員 4ページの(2)農産物収穫量のところの資料が10年前と同じ、これが最新のものなのか。もう少し新しいものがあるか。

吉川母子保健係長

比較できる同じものを探したが、同じものの統計が見つからなかった。これが最新である。

佐宗委員 (3)作物別作付(栽培)面積についても2005年のものが最新なのか。

吉川母子保健係長

最新である。

佐宗委員 9ページの毎日朝食をとる小中学生の割合で現状値が平成26年度だが、平成27年度の調査報告が出ているので、差し替えていただきたい。

吉川母子保健係長

新しいものに差し替える。

吉田健康づくり課長

確認も含めて新しいものに差し替える。

小谷委員 3ページの農家戸数の推移のグラフで、農家戸数が減っている要因は何か。また、平成22年度で少し上がってきているのは、新しい若い人が増えているからなのか教えていただきたい。

村上農政課主査

ご指摘いただいた農家戸数の推移の関係だが、自給的農家が増えて

いるのは、若い人が参画をされてきたこと。兼業農家が減って、専業農家が増えているのは、サラリーマンをしながら兼業農家をされた方が退職されたことで農家に参加する人が増えたことが主な理由によるものである。

小谷委員 全国的な傾向なのか。

村上農政課主査

多少違いはあっても全国と同じ傾向である。

柏木委員 8ページの学校給食における県内地場産品の使用率の推移についてで、平成24年度から25年度より5%下がっている理由は何か。

吉川母子保健係長

明確な答えは、わからない。おそらく平成25年度に小田原産のみかんが配送の関係で難しくなったと聞いている。これ事体重量比ということで、重量でどれぐらい使っているかというものを出しているの、みかんが使えなくなって重量が減って地場産の使用率が下がったと聞いている。他には、天候等によるもので、量をそろえることが難しかったことが考えられる。

平成26年と27年で少し伸びが見られるのは、水産海浜課のカマス棒の導入、声かけにより上がったと聞いている。

飯野委員 9ページの目標2 バランスよく食べるや食べ物を大切にする気持ちを育むとあるが、回答は回答者の主観になるのか。

吉川母子保健係長

主観になる。アンケートの内容的に回答をしていただく方の主観によるものが多い。

自分自身で栄養のバランスを考えていないと感じている方がこれだけいるということなので、本市としてもこのところについては、力を入れて皆さんがバランスよく自分が食べられてると感じていただけるように推進はしていかないといけない。

飯野委員 バランス良く食べることがどのようなことか、わかりやすく示してあるとよい。

安野委員 今のバランスの話は、食事バランスガイドというのがあるが、それをイメージして聞かせていただいた。

委員長 バランスよく食べる、ということのバランスについては、一人ひとり感覚が違うと思うので、小田原市のバランスよく食べるということをこういうものを推奨している、というものがあつてのバランスよく食べるという調査だったら良かったと思う。推進計画を実行する中での検討をお願いしたい。

【第3章について】

吉川母子保健係長

第3章について説明。

【質疑応答】

安野委員

第3章、第4章についてあわせて質問したい。

佐久間委員

基本目標5のところ、全ての人が食育実線できるよう、団体や企業とネットワークをつくりとあるが、小田原は、外食の方も味付けが濃いため、外食産業の方々にアドバイスや勉強会とかご指導等お願いしたい。

委員長

関連してでもいいし、事務局からの説明があったライフステージについて、第4章ですでてくるので、わかりやすいかもしれない。具体的などころの話については、視点1は、全体の考え方で、視点2は誰にということで、視点3から5はどこでという感じに分けられている。具体的な話は、第4章で説明があるかと思う。

吉田健康づくり課長

第4章の説明が入った方がもう少しわかりやすくなると思う。

【第4章について】

吉川母子保健係長

第4章について説明。

【質疑応答】

安野委員

前回送ってもらったものとどこが変わっているのか。

吉川母子保健係長

番号を入れ、具体的にどの施策かわかりやすくした。

委員長

第3章と第4章で、関連付けて質問等あるか。

安野委員

具体的に細かく意欲のある計画だと思う。これをしっかりやっ  
ていけば、日本の文化も変わるだろうと思う。16ページの図について、食育基本法には、農業に関することは文章として載って  
いなかった。ごみ処理のことも載っていない。第1期の小田原の食育推進計画では、食の生産について、後始末について、小田原ら  
しい食というものを始めと終わり、入口と出口をきちんとさせて  
計画を作ったことは第1期計画の良さでもある。これを継続して  
計画に持ってきたこと16ページの図、循環をしているというこ  
との図がさらにわかりやすく工夫された。これだけしっかりした  
計画があるのだから、一人ひとりがしっかり食べるで締めくくる

のではなくて、食育基本法は生きる力を食を通してつけるのだというのが、食育基本法ではないか。基本理念について、15ページを見ていただきながら提案をしたい。「食べる力」ではなく、「生きる力」をつけるとしたほうがよいのではないか。「海や大地の恵を感じながら、命の循環を認識して、一人ひとりがしっかり食べることをとおして、生涯にわたって健康で生きる力を身につける」としたらどうか。単なる食の循環ではなく、命の循環だと思う。計画の最終ホームは、生きる力を身につけると言う方がよい。命を我々はいただいている。

杉山福祉健康部副部長

確認だが「海や大地の恵を感じながら、命の循環を認識して、一人ひとりがしっかり食べることをとおして、生涯にわたって健康で生きる力を身につける」でよいか。

委員長

他の委員のご意見はないか。

飯野委員

命の循環については良いことだと思う。一人ひとりがしっかり食べる力とあるが、食べるだけでなく、食の自立、食材を選ぶ調理する、そして恩恵に感謝しながら頂くそれが大事。食べる力にしない方が良いと思う。併せて16ページのイラストについても命の循環がわかるよう、牛とか豚とか動物の命を頂いている事をわかるように絵として入れた方が非常に「命」と「頂く」ということが伝わりやすいと思う。

委員長

他にはいかがか。基本理念に関して、安野委員、飯野委員の意見を参考にして練り直して頂くでよろしいか。

16ページの図には、小田原らしく魚や農産物のイラストを入れると良いのではないか。

杉山福祉健康部副部長

承知した。

松本委員

「生きる力」イコール「食べる力」ではない。支えるものとして食育とか食べる力は大事なものである。全部含めて、「生きる力」である。

佐宗委員

食育がベースになり、知育・徳育・体育があり、知識・心・体がある。これをバランスよく育てていくことが、生きる力につながっていく。「食育」イコール「生きる力」ではない。学校で学ぶ食育は食べることだけではなく、食事を生きる力で表現するのは、どうかと思う。

安野委員

食育とは、生きる力を支えていく大事な要素である。

- 鈴木委員 第1期の食育計画の理念があったと思うが、理念とは、目標であるので、計画が達成されるまで同じがよいのではないか。第1期で理念、第2期で理念、第3期で理念があるというのは、どうかと思う。
- 委員長 第1期と同じ理念でよいというご意見かと思う。  
他の方はいかがですか。
- 飯野委員 文言が多少変わってもベースが同じ方向に向くので小田原らしさも感じられ、根本、根底が変わらないのではないかと思う。
- 杉山福祉健康部副部長  
小田原市総合計画にも、第1順位が「命を大切にする小田原」としている。ただ、それは人の命だと思う。生きる力の趣旨をしっかりとまとめて、明確にして、ご指摘のとおり修正するのか、このままでいくのか検討させていただきたい。  
皆さんのご意見を参考に調整をさせていただく。
- 委員長 他に何かあるか。
- 柏木委員 14ページについてだが、目標1 栄養のバランスを考えて食事をする市民の割合の目標値が75%以上めざすとあるが、次年度何か目玉となるような取り組みがあるのか。
- 吉田健康づくり課長  
健康増進計画に基づいて様々な健康施策を行っている。平成28年は食からの新たなアプローチということで、健康メニュー事業「健康具だくさん味噌汁コンテスト」の実施することとした。次年度以降も食に関して取り組みを行う予定である。目標値については、現状値から見ると厳しいかと思うが、取り組みを行って目標を高く持ってしっかり取り組みたい。
- 安野委員 施策を見てから目標値について話をしたい。
- 大寶委員 栄養バランスについて具体的な文言を教えてください。市民にも栄養バランスがどのようなものが伝わると思う。
- 委員長 食育は、それぞれの場で、具体的な方法論を示さないとわかりづらいので、要所要所で示す必要がある。
- 佐宗委員 小中学生から朝食の喫食率が高いが、内容は菓子パンだったりする。回答も「はい」「いいえ」で答えている。小中学生からバランスの良い食事がどのようなものか具体的に示されていると良い。
- 佐久間委員 41ページだが、外食産業についてわかりやすく載せた方が良いと思う。東京都台東区の例だが、1件1件店舗をまわって野菜の使用量について増やすよう話をしたとのこと。小田原も高齢化が

進んでいるので、野菜をたくさん使ってもらいたいと惣菜等販売している店舗に話をしてみるもの良いかと思う。

杉山福祉健康部副部長

食は家庭、文化等であり、入りにくい部分もある。取り組んでいる場所として学校、地域、外食産業があり、健康づくり課中心で取り組んでいく方向で検討する。

委員長

16ページの図の中に給食、実際にご協力頂いているのであれば外食産業のイラストを入れるとよいかと思う。

柏木委員

2月に食品衛生協会と減塩メニューの試食会を富士屋ホテルで実施していると思うが。

吉田健康づくり課長

今、取り組んでいる味噌汁レシピコンテストも具たくさんで野菜をたくさん摂るということもその一環である。

#### 【第5章について】

吉川母子保健係長

第5章について説明。

委員長

第5章計画推進について、第3章、4章も含めて意見等あればお願いしたい。

#### 【質疑応答】

安野委員

基本目標を着実に推進していくために、関係各団体の連絡会の位置づけを小田原市の中で明確にし、連絡会にも資料等提案し共有する必要がある。また、16ページのどこに自分たちの各団体の位置がわかるように、どのような基本目標を持ったらいいか、わかるような取り組みをして欲しい。

吉田健康づくり課長

食育に関する推進団体連絡会だが、年2回から3回開催し、情報交換を行っている。食育を推進していくため、市がコーディネート役を担い、各団体が円滑に活動できるよう支援していきたい。

安野委員

連絡会の位置づけをきちんとしてもらえると、各機関が連携しやすくなる。

委員長

17ページ、18ページを見ると、どの位置に自分たちの団体がいて、どのような取り組みができるのかが、わかりやすくなり、目に見えるものができてよい。

飯野委員 小田原市のイベントの周知についてだが、うまく連携されていない。企業や施設、地域と協力することで、関係団体についてだが、若いママ達が立ち上げている団体が、プレイパークや遊ぶプラス自炊を進めるところで、食に関する情報をうまく連携がとれば、質の高いものが出来上がると考えられる。

杉山福祉健康部副部長

ホームページ等で周知しているが、なかなか浸透しない。来てくれるのは、熱心な方だけである。

飯野委員 本当に来て欲しい人へ周知を行わないといけない。民生委員や自治会の回覧を活用できるとよいが。

佐久間委員 2年ほど前に、健康だよりの冊子を定期的に出すといった話があったが、今はどうなのか。

吉田健康づくり課長

予算的なものがあるが、冊子としてはやっていない。現在は、広報小田原の1日号最終ページに健康だよりの情報に掲載している。

松本委員 毎日の給食があるのは、よい。小田原は完全給食の実施をしているので続けて欲しい。中学校では弁当の日の実施がある。本校でも全員で行っている。食育は大事で、生きる基本である。

委員長 周知に関してよい方法があれば、提案を各委員さんに依頼してよいか。

小谷委員 保育所は、乳幼児期で最初の食べる場である。保育園で、どのように取り組んで伝えていったらよいか考え、相談してみたいと思いました。有意義な会議であった。

委員長 今回、1から5章まで、少し行政に手直しして頂き、最終の第3回策定委員会で提案をして頂くでよいか。

柏木委員 周知についてだが、何か提案をした方がよいのか。

杉山福祉健康部副部長

ご提案をしていただくと有難い。

## (2) その他

- ・今後の予定について

吉田健康づくり課長

第1回の策定検討委員会でも説明したが、今度の予定として12月の厚生文教常任委員会で計画案の報告後、12月中旬からパブリックコメントを行う予定である。



- ・第3回策定検討委員会について

吉川母子保健係長

次回の開催日についてだが、年が明けて2月2日木曜日、場所は保健センター3階大会議室を予定している。またご案内を送らせていただく。